

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4076200403
法人名	地域福祉研究所 有限会社
事業所名	グループホーム ほなみ
所在地 (電話番号)	福岡県飯塚市枝国430番地2 (電話) 0948 - 23 - 4227

評価機関名	株式会社アーバン・マトリックス		
所在地	北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成20年2月27日	評価確定日	平成20年4月23日

【情報提供票より】(平成20年2月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成18年3月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	13 人	常勤	13人, 非常勤 0人, 常勤換算 5.3人

(2) 建物概要

建物構造	木造造り 平屋建ての1階部分
------	-------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000円	その他の経費(月額)	(光熱費)15,000円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(150,000円)	有りの場合 償却の有無	有(2ヶ月~1年)	
食材料費	朝食	350 円	昼食	350 円
	夕食	466 円	おやつ	円
または1日当たり 1,166円				

(4) 利用者の概要(2月20日現在)

利用者人数	17 名	男性	4 名	女性	13 名
要介護1	6 名	要介護2	2 名		
要介護3	4 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 88 歳	最低	66 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	大庭医院 / 児嶋病院 / 藤井歯科医院
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームほなみは、慣れ親しんだ地域での生活、安心して安全で楽しく元気に生活する事をモットーに日々のケアを管理者と職員が一丸となって取り組んでいる。ホームは、広くゆったりとした平屋建ての建物で、天井が高く開放感に溢れた造りとなっている。周辺は閑静な住宅地で、ホームの敷地前には畑があり、商店なども近く生活環境に恵まれている。夏には、ホーム前の畑にひまわりの種を植え、ひまわりが畑一面に美しく咲き、入居者や地域住民に大変喜んでいただいた。散歩や買い物には、なじみの商店の方が声をかけてくれたり、日常の中で入居者との交流を高めている。また、地域との交流では、公民館での地域住民に向けての高齢者ケアの講師を引き受けるなど地域密着型サービスとしての役割を果たそうと努めている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の調査では、介護計画の内容や地域との連携・薬の服用について改善が指摘されていた。介護計画については、入居者の思いや意向を把握するためにセンター方式の研修を受けている。地域との連携は、公民館での高齢者ケアの講師を引き受けるなど地域との連携を高める努力をしている。薬の服用は転倒防止のため、高圧剤の服用を少なくするなど改善している。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は職員が内容に目を通し、職員で情報を共有し、自己評価を行っている。評価結果に関しては、朝礼やミーティングで話し合い、改善に向けて取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は、暮らしの状況や取り組みについて、オープンに情報を共有できるように取り組んでいる。家族の代表も参加されるので、意見や要望を出していただける機会としてとらえている。また、飯塚市役所の担当職員も参加していただけるので、運営などについて助言をいただいている。出された意見や要望は、管理者・職員で受けとめながら、サービスの質の向上を図るために改善を行うなど活かしている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族の意見・苦情を把握するために、運営推進会議では、議題として取り上げ意見交換を行い、改善などがある場合は、毎月定期的に発行する「ほなみ通信」で報告している。また、家族の面会時には職員が積極的に家族とコミュニケーションをとるようにしており、その際、意見や苦情など言っていたるように取り組んでいる。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	町内会に加入しており、リサイクル活動や敬老会・草取り・ゴミ収集など地域の活動に積極的に参加している。グループホームの作品展には地域の方約50名の来訪を受け、ホーム行事の中で地域との交流を図っている。公民館における高齢者ケアの講師依頼も受け、地域密着型サービスの役割を果たそうと努力されている。また、飯塚市の高等学校介護福祉課の実習生も受け入れており、地域との連携を高めている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域に根ざした、安心と尊厳のある生活・元気で楽しい生活」を家族と同様の関係の中で支える独自の理念をつくりあげ、地域密着型サービスの役割を果たしていくことを謳っている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	共有空間の見やすい壁に理念が掲げられ、毎朝、管理者・職員・入居者と共に唱和し理念の共有化を図っている。理念の実践に向けては、地域に根ざした暮らしの実現に向けて管理者・職員が一丸となって取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入しており、リサイクル活動や敬老会・草取り・ゴミ収集など地域の活動に積極的に参加している。グループホームの作品展には地域の方約50名の来訪を受け、ホーム行事の中で地域との交流を図っている。公民館における高齢者ケアの講師依頼も受け、地域密着型サービスの役割を果たそうと努力されている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員が内容に目を通し、職員で情報を共有し、自己評価を行っている。評価結果に関しては、朝礼やミーティングで話し合い、改善に向けて取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、暮らしの状況や取り組みについて、オープンに情報を共有できるように取り組んでいる。家族の代表も参加されるので、意見や要望を出していただける機会としてとらえている。また、行政の担当者からも助言をいただき、出された意見や要望は、サービスの質の向上を図るために改善を行うなど活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村が派遣する介護相談員を毎月1回受け入れている。運営やサービスについて、質問や要望がある場合は、飯塚市の担当窓口にお問い合わせや相談し、行政との連携を図っている。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。	人権や権利擁護に関する研修は積極的に受講し、職員全員に伝達研修を行っている。実際の利用については裁判所に出向き、利用する場合の情報や申請方法などを確認している。「成年後見申し立ての手引き」「後見開始申立書」などを完備している。また、同和問題研修会にも参加し人権に関する理解を高めている。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月定期的に「ほなみ通信」を発行し、外出・外食などの暮らしの状況や行事予定などを報告している。また、病気の経過などの報告も面会時などに行っている。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見・苦情を把握するために、運営推進会議では、議題として取り上げ意見交換を行い、改善などがある場合は、毎月定期的に発行する「ほなみ通信」で報告している。また、家族の面会時には職員が積極的に家族とコミュニケーションをとるようにしており、その際、意見や苦情など言っていたるように取り組んでい		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	なじみの関係を大切に考え、日常的に2ユニット間の職員の行き来を活発に行い、職員と入居者のなじみの関係づくりを行っている。異動や離職はやむを得ない場合があるが、必要最小限にとどめる努力をしている。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。	性別や年齢などを理由に採用対象から排除しないようにしている。採用は働く意欲などを考慮し採用している。また、研修は職員の意向を把握し、福岡県福祉協議会や各事業所が行っている研修などに参加できるように取り組み、職員が意欲をもって働けるように努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	人権研修は、全職員が研修参加ができるように勤務の日程を調整するなど、人権に関して理解を高めるように取り組んでいる。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	福岡県社会福祉協議会主催の研修を受講し、職員の能力などに応じて「レクリエーションコース」「介護予防コース」「認知症介護コース」など受講している。また、法人内で定期的に勉強会を開催し、職員のスキルアップを図るために取り組んでいる。		
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	研修会などの機会を利用し、同業者との情報交換を行い、グループホームを訪問するなど連携を図っている。更なる同業者のネットワーク化を図る取り組みに期待したい。		
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	入居者・家族と面接を行い、面接において悩みや相談を受けとめ、納得して入居していただけるように取り組んでいる。入居前には情報交換を行い、なじみながら入居できるように支援している。試験的に体験入居もできるようにしている。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気などに徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	毎日の暮らしの中では、掃除や洗濯物たたみ・食事の片付け・畑仕事・買い物など入居者ができることを役割として担っていただいている。入居者同士で助け合う関係づくりや職員が学ぶ機会づくりなど共に役割を持って暮らすことを支援している。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握	入居者が「どのように暮らしたいのか」を把握するために、日々の生活の中で見えてくる事から、その時々 の気持ちに寄りそうように取り組んでいるが、更に職員 の日々の気づきなどから入居者の思いや意向を掘り下 げる取り組みが望まれる。		
		一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている			
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画	介護計画は、入居者の疾患・生活リハビリ・レクリエー ションなどの面から、足踏体操100回など具体的な1ヶ 月ごとのケア目標があり、個別に1ヶ月ごとにケア目標と 実施状況をわかりやすくノートに記録している。ケア会 議の記録の工夫が求められる。		
		本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方につ いて、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞ れの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している			
19	39	現状に即した介護計画の見直し	介護計画のケア内容の実施状況を1ヶ月を単位でわか りやすく記録しており、状態変化に応じた見直しや3ヶ 月後の見直しなど、現状に即した介護計画を作成して いる。		
		介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、 見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、 家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新 たな計画を作成している			
3.多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援	同法人のグループホームが近郊にあり、合同でお誕生 日会や雑祭りなど、交流やふれあいを楽しんでもら うように支援している。また、多様で元気な生活を 送っていただけるように、外出や行事など多彩な活動 を実施している。		
		本人や家族の状況、その時々 の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をして いる			
4.本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援	これまでのかかりつけ医との関係を大切に支援してい る。協力医療機関の主治医は月2回の往診・歯科医は 週1回の往診があり、緊急時の医療機関との体制も構 築しており、適切な医療を受けられるように支援して いる。		
		本人及び家族等の希望を大切に、納得が得ら れたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、 適切な医療を受けられるように支援している			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	入居者や家族の意向にそって、ターミナルケアを行っている。医療機関と体制を構築し、看取り方針・承諾書・リスクに関する説明書類(重度化した場合の指針を含む)が整備されている。		
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	職員は言葉かけは丁寧語を基本としているが、入居者との関係づくりの中で、声かけなどの言葉を考え対応している。記録類は、事務所の棚に保管・管理している。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	日々のその人らしい暮らし	入居者の自己決定を尊重し、声かけを行いながら、本人の希望にそった支援ができるように取り組んでいる。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援	食事は配膳・後片付け・食器洗いなど手伝っていただき、楽しみなものとなるように支援している。ハンバーガーや回転寿司・たこ焼きなど、定期的に外食も楽しんでいただけるように取り組んでいる。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
26	59	入浴を楽しむことができる支援	入浴は週3回行っている。曜日や時間帯は希望があれば変更している。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	入居者の趣味である編物や畑づくりなど、暮らしの中で楽しんでいただいたり、モップかけ・洗濯物干しや洗濯物たたみ・食器洗い・新聞折りなど役割を持っていただき、喜びや張り合いのある暮らしを支援している。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	ホームの周辺の散歩を日課とし、歩行訓練も兼ねて取り組んでいる。月一度は買い物ツアーにで出かけている。また、毎月定期的に季節を感じていただくために菖蒲やコスモスなど季節の花見に出かけている。		
		事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践	安心と尊厳のある暮らしの実現に向けて鍵をかけないケアを実践している。職員は入居者一人ひとりに目配りを行い、外出の意向がある場合は、職員が付きそい、鍵をかけないように取り組んでいる。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	防火訓練は年2回、8月と2月に実施している。近隣住民や運営推進会議に関わる方・介護相談員などの協力を働きかけている。また、職員が消防署の1日防火教室に参加し、心肺蘇生法の訓練などを受けている。		
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	1日の栄養摂取量は1200～1400cal、水分摂取量は1000ccを目安としており、入居者の体重の減少など家族が心配しているケースもある。食事は糖尿病の方もおられ、主治医と相談しながら健康に配慮した献立となっているが、入居者や家族の食事に関する意向を確認され、食事の考え方などを伝え意見交換を行うなど理解を求めることが必要である。		ホームの食事の考え方を理解していただくために、ケア会議で食事に関する家族の意見を求めたり、毎月の便りで食事の献立を報告するなど、食事に関する意見交換や情報提供に努めていくことが求められる。
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	共用空間は天井が吹き抜けで高く、開放感に溢れている。また、間接照明が取り付けられ、心地良い空間となっている。共用空間からウッドデッキが続き、天気の良い日には日光浴を楽しむことができる工夫がある。キッチンも対面式で家庭的な環境を提供している。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	入居者がこれまでの暮らしを継続できるように、使い慣れた家具を持ち込んでいただき、思い思いに居心地が良く暮らしていただけるように支援している。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			